

Special Interview

副島 淳 -そえじま じゅん-

アメリカ人と日本人のミックスルーツを持つ。生まれは蒲田、育ちは千葉の浦安という中身は日本人。現在はジャンルの垣根を越え、キャラクターを活かし、映画ドラマ、バラエティー、舞台、MC、CM等で活動中。



「本当に世界は広いんだ！」ということは伝えたいですね

思い出で最初に思いつくのは
バスケットボールとの出会いです

思い出で最初に思いつくのはバスケットボールとの出会いです。小学生活の時はこの見た目の違いで結構辛いじめを受けてきました。その結果人間性も変わり閉鎖的になってしましました。けれど、中学校からバスケットボールを始めたことで、本來の自分に戻つていきました。人間性や性格面が変わったというわけではなくて、本来の自分に戻つたといいます。

副島様は生まれたころからお父様にお会いしたことなく、母子家庭で育つたと伺いました。そのような状況で、幼少期の思い出の中で今も心に残っている言葉や場面はありますか？

—講演会事前インタビューを快く引き受けくださり、誠にありがとうございます。これからいくつか質問させていただきますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

楽しみです。よろしくお願ひします。

人生を左右するというと大げさかもしれません。自分が中の節目で、例えば母の言葉であったりとか、中学で始めたバスケットボールの顧問の先生の言葉であったりというのではなくて、人に何か意見するところがあつて、人に何か意見するとか、提案するなどの自己主張が全くできませんでした。けれど、そんな生は、チームの中心に据えてくれた言されました。「副島、バスケットボールはチームスポーツだ。チームの中心である副島は意見を言わなくていい。しかし、言いつぱな生ではお山の大将になってしまいます。だから、自分の意見を言うときは、相手の意見も同じくらい聞きなさい。そうすればチームは強くなるし、おいくだらう。」と。

中学校の時のバスケットボールとの出会いというのは、性格を変えたのではなく、本来の自分に戻るきっかけをくれたというわけですね。

「自分の意見を言うのと同じくらい
相手の意見も聞きなさい」



引っ込み思案な自分を変えたのは、部活の顧問の先生の言葉でした

この言葉は、正直自分でガツンと来ました。今までただ聞くだけだったので、それでは何もよくなりません。自分の意見を言うのと同じくらい相手の意見も聞くということをその先生に教えてもらつて、それが今芸能活動や仕事にも通じるものがあるのかなと思います。

そうなんですね。中学のバスケットボールの顧問の先生というのは、人として素晴らしいことを教えてくださつた方だつたんですね。

そうです。中学1年生の頃は那个先生はいなかつたんですけど、2年生の頃に赴任してきて、バスケットボールに情熱を注いでいた方でした。その先生に出会わなかつたら中学でバスケットボールを辞めていたかもしない。その先生のおかげで僕も周りも強くなれました。自分自身も高校・大学とバスケットボール推薦で進学できたので、その先生との出会いはめちゃくちゃ大きかったです。その先生は、副島さんにとっての「原点」のような方なんですね。



自分の違いを言わされたときは、どん底に突き落とされるようだった

最初に言われた言葉ですね。自分が見た目の容姿について「汚い」とか「臭い」とか「気持ち悪い」とか言されました。最初に言われた言葉に心に刻まれている出来事などあれば教えていただけますか？

最初に言われた言葉ですね。自分が見た目の容姿について「汚い」とか「臭い」とか「気持ち悪い」とか言われました。最初に言われた言葉に心に刻まれているというか、トラウマですね。言われるまでは、自分の中ではすごく衝撃的な言葉でした。一番最初に自分の違いを言われた時は、未だに思い出します。どん底に突き落とされるような、叩き落されるような、すごく衝撃的だったことを覚えていきます。

最初の頃というと、小学生に入りたての頃でしょうか？

小学4年生の頃ですね。転入した先で、そういう言葉の数々を浴びせられました。10歳前後で言われたので、その時の最初の言葉の数々といふのは自分で深く刻まれています。

心にもないことを言われてしまうと、一番最初の傷というのは、フルッシュバックしてしまうこともありますよね。

そうですね。結構きつかつたです。

そのような辛い状況の中で、逃げ場や支えになつたものは何でしたか？

それがやっぱりテレビだつたんですね。当時はずっとふざぎ込んでいたので、笑うとかポジティブなプラスのエネルギーというものはまったく働かなかつたんです。周りとまったく人間関係も構築できなかつたので、ずーっと一人で、学校に行つたら目立たないように目立たないよう隅っこにいて、みんなと目を合わせるのも怖くなつてしまつたんです。でも、家に帰つて一人でテレビのバラエティ番組とか見ると、ちょっと笑えたりとか、明るい気持ちになれました。なので、テレビの力はだいぶ支えになつたと思います。今はもうだいぶ慣れましたけど、未だに時々思い返しますよ。憧れの的だつたテレビの中に自分がいることに、たまにちょっと不思議な感覚に陥る時があります。

バラエティ番組を見てると 明るい気持ちになりました

辛いときに、自分を励ましたり、心をえてくださいたような方々と共に演できた時というのは喜びが？

もう喜べないです（笑）毎回もう滅茶苦茶緊張します。超ミーハーなんで！自分で言うのもなんですが、めちゃめちゃミーハー人間なので。やっぱり未だに感動してしまいます。すごいですね。皆さん生きているんですね。

本当ですよね。テレビの向こう側となりますが、同じ人間のはずですが、別世界の人間のようですよね。

では最後の質問になりますが、今同じように見た目ですか、いじめで悩みや孤独を抱えている子どもや若い世代に、どんな言葉を届けたいですか？

—◇—



これって自分も当時は小学校が世界のすべてのようを感じていたからなんです。小学校つてちっぽけなクラスですよ。それこそ人数は20数名しかいません。それが全世界の人々の意見のようを感じてたんですね。なのでクラスの人から言われる言葉というのは、小学校を出てもみんな同じように思つてます。見てなんだと陥つてきました。でも、何度も言うように本当はそれが全部のピンのようだ。

もし今いる環境が辛かつたり逃げ出したかつたら

全然逃げても良いと思うんです

世界は本当に広いので、もし今いる環境が辛かつたり逃げ出したかつたら全然逃げていいと思うんです。というのも、僕も逃げていたので。環境を変えるまではいけなかつたですけど、環境の中でもがきながら逃げていたので。環境を変える。たとえば僕の時代にはなかつたけれど、ネットの世界に逃げてもいいです。自分のメンタルが上がるなら。でも、人を攻撃するとかは良くないですよ。ネットはいろんな使い方ができますから、そうした世界へ逃げてもいいですし、環境をえてまた違うところに行つてもいい。今いる環境だけがすべてではないと思うので、いろいろと自分の中で、何とか前を向いて視野を広げて自分が行ける環境に身を置いてほしいなと思います。

今辛くとも、そこの今いる場所って決してすべてではないんです。世界は本当に広いですし、まだ見ぬ世界は多々あるので、そういうたところにどんどん自分で逃げてもいいと伝えたいですね。当時の自分にも言いたかった言葉です。

なるほど。ご自身が10歳の頃の自分に伝えるとしたら：

そうですね。本当に今いる場所が世界のすべてではないよって伝えたんですね。

そうしたらちょっとだけ希望が、そんなにいきなり視野が明るくなるとか環境が明るくなるとかではないと思いませんが、ちょっとだけ。頑張るという言葉も僕からしたらプレッシャーだったと思うんで、じやあちょっとだけ生きてみようかなとか。ちょっとだけまだ歩いてみようかなとか思える一つのきっかけになるんじゃないかなと思います。本当に世界は広いんだということは伝えたですね。

—◇—

——ご自身の体験からの貴重なお話し、誠にありがとうございました。これにてインタビューは終了となります。副島様のさらなるご活躍をお祈りいたします。



何とか前を向いて
視野を広げて
自分が行ける環境に
身を置いてほしい